



DNA

K:DNA——創立134年目を迎えた国学院大学の「遺伝子」
…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

▽月次祭 8月1日(月) 午前10時 神殿
祭儀

山の原点を探る 山の日が始まる

今年から新たな国民の祝日として8月11日(祝・木)に「山の日」が制定された。改正祝日法では、この山の日を「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日としている。ふるさとを見つめ直すきっかけや登山者の増加などの効果が期待される。

山を神霊が宿る神聖な場所と考える山岳信仰は、古くから日本の山を語る上で切っても切り離せない存在である。今回は、大山阿夫利神社権禰宜の目黒久仁彦さんと教育開発推進機構准教授の中山郁先生の2人に、山岳信仰や山の日制定に対する思いを聞いた。

そして私たちは、登山の魅力や山岳信仰の奥深さを肌で感じるべく、神奈川県伊勢原市にそびえ立つ丹沢山系の大山を訪れた。生い茂る草木の間を進むと、山中や山頂には伝統ある神社や仏堂が佇み、歴史と自然が作り出す壮大な信仰の世界が広がっていた。

〈記事〉尾澤

- 発行 国学院大学
- 編集 総合企画部広報課
〒150-8440
東京都渋谷区東四丁目
- 電話 03(5466)0130
- FAX 03(5466)0528
- メール kouho@kokugakuin.ac.jp
- HP www.kokugakuin.ac.jp
- 編集 総合企画部広報課/学生アドバイザー
メディアチーム [永井伶奈(チーフ・日文3)/柳下桂一郎(サブチーフ・史2)/土橋菜央(法4)/平野玉葉(経4)/逸見佳歩(外文3)/小口直哉(法2)/尾澤桃子(法2)/野呂侑合香(法2)/本間由(日文2)/岸本京香(経営1)/後藤哲治(日文1)/塚本咲実利(日文1)/豊田菜々美(日文1)/沼田勇佑(哲1)/山本莉紗子(外文1)/吉田奏美(史1)]

INDEX

- 2~3面 「山の日」始まる
- 4面 偶像を切り口に日本文化を知る
- 5面 文系解体新書、K一魂!
- 6面 第17回神道講座開催
- 7面 浴衣姿の学生がキャンパス彩る
- 8面 陸上競技部 2年連続の伊勢路へ

アンケートに答えて「大山こま」を5名様にプレゼント

アンケートに回答してくださった方の中から抽選で5名様に、大山こまをプレゼントいたします[締め切り:8月29日(月)]。

①今号で面白かった記事の感想、②今号の満足度5段階(1低~5高)、③プレゼントキーワード<スポーツ〇〇〇〇〇〇※子供の遊びから発展した新興競技のこと>、住所、氏名、所属(在学生<学科・学年>、保護者、院友<本学卒業生>、本学・本法人教職員、その他いずれか)を明記の上、はがき・FAX・Eメールで国学院大学広報課(連絡先は1面上記参照)までお送りください。また、QRコードよりEメール作成画面を開くことができます。なお、お送りいただいた方の個人情報は法令に基づいて取り扱いたします。



藤阪君、坂本監督ら文部科学大臣表彰

スポーツの世界大会などで優秀な成績を収めた選手とその指導者に対するスポーツ庁の顕彰式が6月28日に、八芳園(港区)で行われた。本学の学生、教職員では、2015年アブダビ世界柔道選手権大会の男子団体で優勝した柔道部の藤阪泰恒君(健体2)と、第28回ユニバーシアード競技大会で柔道男子団体の指導にあたった坂本大記柔道部監督が選ばれた。坂本監督は2年連続の表彰となる。

表彰式に出席した坂本監督は、受章者を代表して鈴木大地スポーツ庁長官から表彰状を受け取った=写真下。

この他、第1回WBSCプレミア12で3位になった日本代表の嶋基宏選手(平19卒・115期史、東北楽天ゴールデンイーグルス)と、第28回ユニバーシアード競技大会の野球で優勝した柴田竜拓選手(経済学部出身、横浜DeNAベイスターズ)が選ばれた。



坂本監督と藤阪君(写真上)と鈴木長官から表彰状を受け取る坂本監督

みはるかすもの

テレビや新聞、インターネットには「カット」なんて「刃傷沙汰」や、欲求を抑えられなかった迷惑行為のニュースが連日連夜並ぶ。視聴者、読者の我々もいちいち驚いてはいられないほどだ。▼昨年度発生した鉄道係員に対する暴力行為の件数は792件に上った。その6割以上が深夜の酔客によるもの。ふとしたいら立ちが大きな代償を生んでいることは明らかだ。▼怒りを表現する日本語は多彩だ。「腹が立つ」「腹に据えかねる」「頭にくる」「カッとなる」「ムカつく」……。文字から受ける印象は、頭のほうがやや短絡的で、「腹に据えかねる」というと、よほど我慢を重ねたように感じる。▼江戸幕府260年余りの泰平の礎を築いた徳川家康公は、遺訓のなかで「堪忍は無事長久の基、いかりは敵と思へ」と説く。公を祀る日光東照宮の稲葉久雄宮司は、「堪忍は、己のわがままや欲望を我慢する、つまり自分の心に対するものと捉え、何事も分相応に我慢する心がけの大切さを訴えています」と解説する。▼便利になった世の中は、パソコンやスマホを少し操れば、感情は誰かに伝わり、欲しいものは手に入る。そうした現実が「堪忍」のない空気を世界に漂わせているように思える。忙しい日常の中で、己の欲に負けていないか、小欄も身につまされる。▼家康公はこうも言う。「不自由を常と思へば不足なし」と。真の豊かさとは何か。考えるときが来ている。

「氣多はふりの家」
朝闇に、郭公が近く鳴きにけり。
今日は、ひそかの心にてあらむ
(春のことぶれ)
釈 道空

"山の日" 始まる～山の原点を探る～

山岳信仰の歴史

日本人にとって、山や自然とはどのような存在なのか。宗教学が専門の中山郁教育開発推進機構准教授に山岳信仰の歴史や、「山の日」を迎えるにあたり、私たちは山とどのように向き合うべきかを聞いた。

古来、日本人にとって山は、豊かな自然の恵みをもたらす「生命を支える大切な存在」で、神々が住まう世界だった。そのため、古代の人々は、みだりに山に入らず、神々を祀る際には山麓に祭場を設けて祭祀を行っていた。それが仏教伝来以降、僧侶や民間宗教者たちが山に修行の場を求めるようになり、日本各地の霊山が開かれた。平安時代に入ると奈良の大峰山(吉野山)や熊野三山の信仰が盛んになり、これらの霊山には多くの修行者が集まった。これらの人々がのちに山伏(修験者)になっていくのである。さらに中世に入ると熊野から大峰を目指して歩く大峰奥駈け修行が行われ、全国山伏の根本道場とされた。また、修験者



たちの宗教「修験道」が成立し、その教団も誕生するようになった。

近世に入り、社会の安定と交通網の整備に伴い庶民が旅をしやすい環境が整えられると、富士山や木曾御嶽山など各地の霊山に庶民が登拝を行うようになる。彼らは「講」という信仰組織をつくり、山への登拝や布教、祈禱活動などを活発にしていた。中世までは修験者というプロの宗教者が、近世以降は庶民が山岳信仰を担っていたといえよう。

山に対する姿勢

「山は生命の源であり、そこには多くの生と死が存在する」と中山准教授は言う。山で修行をする者は、山に入ること



〈記事〉永井 〓写真〓小口・柳下

中山郁教育開発推進機構准教授

今、山との向き合い方を考える

「山Ⅱ自然Ⅱ信仰」と人間のこれから

日本の山は、里や川、海とつながり、古くから信仰の対象とされ、私たちは大きな恵みを受けている。以前は、山開きの6月から8月の期間しか登山はできないなど、人間が自然に合わせて山に入った。現在私たちは時期を問わず登山を楽しみ、山にライフスタイルを持ち込んでしまっていないだろうか。「山を含む自然と人間がどう折り合いをつけて生きていくのか、これからの山との付き合い方を考えるきっかけにしてほしい」と中山准教授は話した。

越えた達成感を得て、新しく生きるための力を得ている。山での修行は体だけでなく、心を鍛える意味もある。

山中を歩くと、木々を揺らす風や川のせせらぎ、鳥たちの鳴き声といった自然と接する機会が増える。修行者たちは、その中で神仏からのメッセージを読み取る。また、現代の修験者たちは修行で山に入る際、自然から身を守る装備を最小限にし、靴底の薄い地下足袋を履くなど、自然から身を守るのではなく、自然を感じやすい装いで山に入っていく。それによって山中で自然、すなわち山の神霊を体感し、交流するのだ。「山を征服しようと思うのではなく、山に『入らせていただく』『登らせていただく』という精神が大切である」と話した。

6月26日、我々学生記者は大山で行われた「日本の基層文化(日本の山と精神文化)」(担当・中山郁准教授)のフィールドスタディーに同行した。このフィールドスタディーは学生に山岳信仰の霊場を実際に体験してもらうことが目的だ。今回は受講生を中心に26人が参加した。先達の中山准教授と道中奉行を務めた3人の教員らは、それぞれ白装束に金剛杖を携えた山伏の姿で、学生らは皆、額に白鉢巻を巻き、「懺悔懺悔六根清浄」と掛念仏を唱えながら山道を登った。

実際の修行に近いかたちで登山をするために、過度な休憩はなく、登山中は電子機器の使用も禁止であった。

山岳修行を体験！

掛念仏唱えながら登山

この日、我々はヤビツ峠から山道を登って頂上を目指し、折り返して阿夫利神社下社方面へ下山するルートをとった。はじめに、神様の神聖な領域に入らせていただくという気持ちを込めて二礼二拍手一礼で山に拝礼し、登山口に入った。山を登る間は、先達の中山准教授の声に合わせて「懺悔懺悔六根清浄」と「掛念仏」を唱える。掛念仏には、日々の生活の中にある自らの罪を懺悔し人間の六根(眼・耳・鼻・舌・身・意)を清める意味が込められている。山林の自然に囲まれ大きな声で掛念仏を唱えると心が浄化されていくようだった。

この日の天気は曇り時々晴れ。



時折照り付ける強い日差しは険しい山道を進む我々に追い打ちをかけるようであったが、谷間を吹き抜ける風に心地よさも感じた。途中、鎖場と呼ばれる急斜面の岩場を乗り越え、約2時間かけて山頂に到着。阿夫利神社本社を参拝した後、下山を始めた。

山中には「天狗の鼻突き岩」や「夫婦杉Ⅲ3面写真左下」など変わった形の自然物があり、神の宿るものとして崇められている。中山准教授は「こうした自然物は全国各地にあり、昔の人々は神秘性を感じ大切に守り継いできた」と話す。

下山後に阿夫利神社下社を昇殿参拝し、大山と修験道の歴史への理解を深め解散となった。



「教え」そして「学ぶ」

場合があります。だけど、私たち教員も、今まで一生懸命勉強してきただけで、分からないことがたくさんあって、そして、分からないことに申し訳ないと考えているという意味では、学生の皆さんとかわりません。ですから、皆さんとしては、ぜひ、授業を受けていて分からないことがあったら、遠慮せずに質問してみてください。教員は、質問をされるととてもうれしいものですし、そして、何より、実は勉強になります。私自身、質問を受けて、回答をしているうちに、質問事項の含む重要な問題点に気付かされ、心の底から驚かされることが何度もありました。

私にとって、学生さんから学ぶことの最たるものは、皆さんの学ぶ姿勢です。こういう時代だから、大学に来て勉強するのはとても大変だと思います。そういった中で、一生懸命勉強しようとする姿は、その領域を学ぶ私に、学問と真摯に向き合うことの重要性を再認識させます。

結局、大学というところは、教員が教えて、そして、学生さんが学ぶ、という一方的なものがなされている場所ではありません。そうではなく、お互いが教えて、お互いが学び、そうやって成長していくところなのです。大学が、社会に対して、考えや情報を発信し、社会の発展に寄与してきたのには、そういった理由があるのです。こうやって考えてみると、私たちは、なかなか「すてきな」ところにいると思いませんか。甘利航司(学生部委員・法学部准教授)

若木が丘だより
encore

大学教員になってしばらくたつのですが、いつも思うのは、自分の知っていることは本当に不十分で、いくらでも勉強すべきことはあるのだ、ということです。毎回、授業やゼミが終わるたびに、自分の不勉強な箇所が思い知らされます。そして、授業やゼミが終わった後、いろいろな資料を探して、例えば海外の文献などを読んで勉強します。

学生さんの中には、自分があまり勉強が進んでいないと考えて、授業後に、とても申し訳なさそうに質問してくる

生誕 130 年記念特集展示
「折口信夫と『死者の書』」
9 月から開催



未来に残したい名著と言われる折口信夫博士著『死者の書』。その初掲載から今年で 77 年になる。

今年は折口博士の生誕 130 年を数え、その折に院友マンガ家・近藤ようこさん（昭 55 卒・88 期文）による漫画版『死者の書』の連載が終了し、単行本が刊行された（上下巻・KADOKAWA 刊、写真）。これを機に、本学博物館では「生誕 130 年記念特集展示 折口信夫と『死者の書』」を開催することになった。

これに関連して行うイベントは全て無料で、詳細は一覧のとおり。申し込み方法など詳細はホームページで。

生誕130年記念特集展示「折口信夫と『死者の書』」				
	開催日・期間	時間	場所	事前申し込み
特集展示 「折口信夫と『死者の書』」	9月3日(土) ～10月10日(祝)	10:00～18:00	国学院大学博物館	不要
ミュージアムトークⅠ「『死者の書』を漫画化するということ」(講師：近藤ようこ氏)	9月10日(土)	14:00～14:30	国学院大学博物館	不要
ミュージアムトークⅡ「折口信夫と『死者の書』」 学問と創作」(講師：小川直之文学部教授)	9月17日(土)	13:00～13:30	国学院大学博物館	不要
長編アニメーション映画「死者の書」上映会	9月17日(土)	14:00～15:10	常磐松ホール	要
講演会「死者の書」天上楽土の道案内」 (講師：辰巳正明本学名誉教授)	9月17日(土)	15:30～17:00	常磐松ホール	要
ミュージアムトークⅢ「国学院の学び、『死者の書』」(講師：近藤ようこ氏、小川直之文学部教授)	9月24日(土)	12:30～13:30	国学院大学博物館	不要
講演会「鳥になり、花になり、愛を告げたい」 「死者の書」(講師：持田叙子文学部兼任講師)	10月8日(土)	14:00～15:30	130周年記念5号館5201教室	要

アイドル
偶像を切り口に日本文化を知る

第42回 日本文化を知る講座
『日本列島藝能史』第 4 回「偶像 (アイドル) の系譜」

深澤太郎 (研究開発推進機構准教授)

本学研究開発推進機構が主催する第 42 回「日本文化を知る講座」が 5 月 21 日から全 4 回にわたって、渋谷キャンパス学術メディアセンター常磐松ホールで開催された。

今年は、4 月から国学院大学博物館で開催した企画展「偶像 (アイドル) の系譜—神々と芸能の一万年—」に関連して『日本列島藝能史』がテーマ。毎週土曜日の午後 1 時 30 分から 90 分間、本学教員をはじめとする研究者がそれぞれ講師を務めた。

6 月 11 日に開かれた第 4 回の講座「偶像 (アイドル) の系譜」は、深澤太郎准教授が講演。現代のアイドル論から始まって、そのルーツを江戸時代、さらには古墳時代にまで遡るユニークかつ興味深い話が展開された。

今回の『偶像の系譜』は、『江戸時代の大道芸』『古代日本の芸能と音楽の考古学』『何が芸能なのか』に続く、「日本列島藝能史」の締めくくりとなる講座だ。

講師を務めるのは、この「日本列島藝能史」と同時開催された「偶像の系譜」展も企画した深澤太郎准教授。

深澤准教授は、1970〜80年代のアイドルは手の届かない「憧れ」の対象、1990年代のアイドルが歌や踊りに卓越したプロフェッショナルだったのに対し、AKB48などに代表される現代のアイドルは、いつでも会いに行ける、現時点では歌や踊りもセミプロレベルだが、それだけに大きな伸びしろがある「素人性」を持っていると説く。また、彼女たちを応援するファンたちも、彼女たちの成長を、総選挙をはじめ、さまざまな場面で懸命に支える非日常的結社を組んでいるようなものだという。深澤准教授いわく「アイドル—ファン間における成長物語の共有」とのこと。

錦絵誕生と明和三美人

素人性を特徴とする現代のアイドルは距離が近い分、人々に生きる気力や勇気を与え、地域に元気を与えるという大きな力を持っていると深澤准教授は強調。これまで綿々と日本人が崇拝し、心のよりどころとしていたさまざまな神仏などと共通するものだと話す。

このような現代的アイドルの「夜明け」となったものとして、18世紀後半の「明和三美人（笠森稲荷の鍵屋お仙、浅草奥山の柳屋お藤、二十軒茶屋の鳶屋およし）」を紹介。この三人が評判になったのは、明和年間に多色刷り版画の錦絵が誕生し、それが多量に頒布されたことが大きかったと語る。現代と同じくメディアがスター誕生を大きく後押ししたわけだ。

偶像崇拜と「芸能」の発生

続いて、世界的に見た偶像崇拜の例として、旧石器時代の豊満なヴィーナスたち、ユダヤーイスラム教周辺の偶像と聖書、キリスト教の聖画・聖像、仏伝図・仏像、そして日本の路傍の神々などを紹介。

一方、日本列島で、立体像・図像として見えない神仏の偶像を崇拜対象とした時期・地域が明確に認められるのは、旧石器時代・縄文時代・弥生時代、そして仏教が伝来した飛鳥時代以降となる。日本固有の信仰である「神道」が形成された古墳時代は、一部の例外を除いて偶像というものが不在な「空白の時代」だという。

この要因として、深澤准教授は、古墳時代は「人間が神になった」時代だと指摘。古墳時代は国家形成が進められた時代だが、それと同時に「神神習合」ともいえるべき宗教改革が行われた時代でもあった。これらの実態は各地に残

る祭祀遺跡や古墳からうかがい知ることができる。人が安易に立ち入ることを許さない自然の中の禁足地や人工的に築き上げられた古墳などの中に、神々や祖霊に向けて装身具、鏡、鉄製武器、織物などの「財」がささげられた。これらの財から判断すれば、祭祀の対象に人格的なものが認められていた可能性は高いものの、神なるものに具体的な形象を与えたことはなかったようだ。これはつまり、古墳に祀られた権力者たちそのものの、すなわち「人間が神になった」ことの証左ではないかというわけだ。

もう一つ、現代のアイドル現象の源流として、偶像崇拜とともに「芸能」の発生についても解説。天の岩戸にもつた天照大神を引き出すために、アメノウズメが踊った踊りこそが芸能の発生だと世阿弥の『風姿花伝』、今春禅竹の『明宿集』にも述べられていると紹介。古代から偶像崇拜と芸能は強く結びついており、それが現代にも脈々と受け継がれていると述べた。

このように、現代のアイドル現象の特徴からスタートした今回の深澤准教授による『偶像の系譜』。アイドルブームの原型がはるか古代にあり、偶像崇拜と芸能の発展と結びつきながら、現代日本にも共通点が見いだし得ることが理解できる、興味の尽きない講座となった。

第 42 回 日本文化を知る講座『日本列島藝能史』

第 1 回 5 月 21 日 「江戸時代の大道芸」村上紀夫（奈良大学文学部准教授）	第 3 回 6 月 4 日 「何が芸能なのか」橋本裕之（追手門学院大学地域創造学部教授）
第 2 回 5 月 28 日 「古代日本の芸能と音楽の考古学」石守 晃（群馬県埋蔵文化財調査事業団上席専門員）	第 4 回 6 月 11 日 「偶像の系譜」深澤太郎（国学院大学研究開発推進機構准教授） （国学院大学渋谷キャンパス学術メディアセンター常磐松ホール）

「アイドル」テーマに企画展 来場者は1万人超

古代から現代までのアイドルや芸能に焦点を当てた企画展「偶像（アイドル）の系譜—神々と芸能の一万年—」が国学院大学博物館で 4 月 26 日から 6 月 12 日まで開かれた。期間中の来場者は、企画展として初めて 1 万人の大台を突破した。

企画展では、現代のアイドルグッズを皮切りに、「会いに行けるアイドル」の原型として人気が広まった「笠森お仙」の錦絵、埴輪や土偶など、芸能やアイドルの歴史をたどる 50 点が展示された。

5 月 7 日には、展示の企画を担当した深澤太郎研究開発推進機構准教授と石井匠同館学芸員によるミュージアムトークが行われ、多くの来場者でにぎわった（写真）。

国学院大学博物館今後の企画展予定

企画展 <学びへの誘い> 「江戸文学の世界—江戸戯作と庶民文化」
会期：平成 28 年 7 月 19 日（火）～8 月 28 日（日）
休館日：8 月 10 日（水）～ 8 月 19 日（金）

企画展「武蔵国高麗郡 建郡 1300 年 『日本に根付いた渡来人—高麗郡と高麗神社—』」
会期：平成 28 年 9 月 3 日（土）～10 月 10 日（祝・月）

企画展「祭礼行列 渡る神と人」
会期：平成 28 年 10 月 15 日（土）～12 月 4 日（日）

文系解体新書

文学部 藤澤紫教授

今年、渋谷区のBunkamuraザ・ミュージアムで幕末の二大浮世絵師、歌川国芳と歌川国貞の作品を集めた展覧会「ボストン美術館所蔵 俺たちの国芳 わたしたちの国貞」展が開催され人気を博した。昨年、浮世絵をテーマにした展覧会は全国で30会場以上。テレビでも数多く取り上げられ、日本は今、まさに浮世絵ブームである。私たちは日本美術の研究をしている文学部史学科の藤澤紫教授に、その魅力と人々の心をつかむ理由を聞いた。



歌川国芳「源氏雲浮世画合 帚木 葛の葉狐」(個人蔵)

ブーム沸騰中! 日本のお美「浮世絵」の魅力に迫る

情報紙に込められた職人技

江戸時代、大量に世に出された浮世絵は、人々にとってどのような存在だったのか。藤澤教授によると、「当時の浮世絵には情報紙としての一面があった」という。美人画はグラビア、役者絵は芸能、名所絵は旅行ガイドなど、現代のメディア分野に当てはめると、浮世絵のイメージが湧きやすくなる。情報通の江戸の庶民たちは色あざやかな浮世絵版画をこぞって買い求めた。

浮世絵は単なる娯楽品ではなく、今や紛れもない芸術品として世界中で愛好されている。「大胆な色づかいや構図からは、一般の出版物にはないこだわりが読み取れ、木版に注がれた職人技に驚かされる」と藤澤教授は話す。髪の毛一本に至るまで緻密に表現した技からは、ものづくりの国・日本の気概が感じられる。

幕末絵師の代表格・歌川国芳

近年注目を集めている絵師に、幕末に活躍した歌川国芳がいる。国芳はユーモラスで可愛げのある作品から、勇ましい武者まで、多様な題材を描いた。国芳の作品の登場人物はファッショナブルで、大胆な構図は現在の漫画などをほうふつさせる。「国芳は私たちのイメージする江戸っ子そのもの。粋で洒落のきいた生き方が、人々を魅了している」と藤澤教授は話す。

現代人にとっての浮世絵

藤澤教授によると、近年の浮世絵ブームは大きく分け

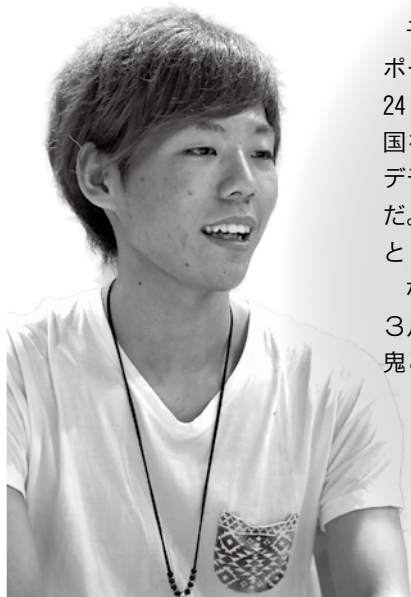
て2つの理由があるという。

1つ目は浮世絵の特徴である、分かりやすさだ。庶民のために作られた浮世絵。描かれたのは人物や風景など誰の目にもわかりやすい題材だ。

2つ目は浮世絵の誕生から350年、江戸時代から150年がたち、人々が浮世絵を客観的に捉えることができるようになったことだ。「現代の若者は、浮世絵を古臭いものではなく、新鮮なものに感じる」と言う。

価値が再評価されている浮世絵を、専門的に学べる大学は多くない。「浮世絵は江戸の生き生きとした日常を体験できる素晴らしい史料。国学院大学で、たくさんの人に魅力を発信していきたい」と藤澤教授は語った。

〈記事〉小口・柳下 〈写真〉藤澤教授提供・野呂



子どもの頃、誰もが遊んだ鬼ごっこをスポーツ化した「スポーツ鬼ごっこ」という競技がある。国内の競技人口は24万人(平成27年時点)にも上り、同競技の体験会は全国を網羅。2019年に茨城県で行われる国民体育大会ではデモンストラレーションスポーツとして競技が行われる予定だ。国際進出も進み27カ国の人々に日本発祥のスポーツとして楽しまれている。

村松真君(法2)は同競技のサークル「RUN」を今年3月に設立し、5月には日本代表に選出された。スポーツ鬼ごっこに熱中する村松君にその魅力取材した。



身一つで挑める?

スポーツ鬼ごっこは、選手の年齢・性別・体格を問わない競技だ。ルールは、7人ずつの2チームに分かれ、敵陣のコートにある宝を奪った回数が多いチームが勝ちだ。敵陣に攻める際に両手でタッチされたら自陣のSエリアという安全地帯に戻って再スタートしなければならないなどのルールがある。

選手の特長を生かして守備・攻撃の役割を決め、仲間と意思疎通を図るなど、チームプレーの要素が凝縮されている。道具を使わず、特別な技術も必要ない。少しのスペースと宝さえあればゲームが成立する手軽さも人気の秘密だ。

スポーツ鬼ごっこに恋に落ちて

「年齢も性別も関係なくコートを走り回る選手たちを見て、感動した。ひとめぼれでした」と語る村松君。スポーツ鬼ごっことの出会いは高校3年生の夏だった。野球部を引退後、鈍る体を動かしたいと思った時に偶然テレビで見かけたのがきっかけだ。早速友人を誘って地域のチームに参加。その年の秋、高校生チームとして初出場した全日本大会でベスト8に入賞した。大学入学後も競技を広めながら自分も楽しみたいとRUNを設立。「一度挑戦したら、誰でも夢中になる」と村松君は語る。

運動が苦手でも楽しめる!魔法のスポーツ



6月に行われた都道府県大会でプレーする村松君

みんなにくる、宝をとるチャンス

「勝ち負けよりも楽しむことが大切。鬼ごっこだから」村松君が何より大事にしている信条だ。

私たち学生記者は今回、RUNにお邪魔し、スポーツ鬼ごっこを体験した。初心者でも敵の隙をついて点を取るなど楽しむことができた。「おとり役の味方の陰から宝を一気に奪取する瞬間のすがすがしさは癖になる」と村松君は話す。RUNでは体験参加者を受け入れている。興味がある人は参加してみてほしい。

〈記事〉野呂 〈写真〉塚本・豊田

WITH「カンボジアへトイレ寄贈」体験を報告

国学院大学国際協力サークル～優志～(以下「優志」)は、4月27日に学内で5人組エンターテインメント集団「カメレオ」と優志が主催するチャリティー企画「今、僕達に出来ること」の第3弾として対談を実施した。この企画は、カメレオと優志による、昨年4月から行っていたカメレオの47都道府県ツアー「47都道府県に会いに行くバンドマン」の場を通して、全国の人たちへ「国際協力やチャリティーを考えるきっかけ」を与えることを目的とした内容だ。9月には目標金額15万円を上回る17万7016円の支援金が集まった。

この多くの方々の思いをカンボジアへ届けるため、今年3月、優志は、コンポンスプー州オラール郡にある小学校へトイレ1棟を寄贈した。今回の対談は、カメレオのメンバーと3月にカンボジアへ渡航した優志のメンバーで行われた。

対談の冒頭、現地の小学校で寄贈式が行われた様子を写真や動画で報告した。小学校のトイレは壊れていて、使用できない状態であったため新調された。動画では、子どもたちが喜び、大切に使用することをメンバーと誓っている様子が流れた。

後半は、優志のメンバーがカンボジアへ渡航をして感じたことを共有し、カメレオのメンバーと一緒にカンボジアの問題を考え、今後、お互いがカンボジアのためにできることを話した。

現在のカンボジア都市部では首都プノンペンにAEON2号店



が進出するなどの急速な経済発展が見られる一方で、農村部へ行くと、朝から家畜の世話や畑仕事に従事する住民が多いなど、考えられないほどの格差が生まれている。この深刻な問題を学生が解決することは難しいが、その格差を少しでも埋められるよう、優志は、これからも「カンボジアに命の水を届ける」を目標に掲げ、村人が安全な水を自発的に飲める環境作りをしていく。

現地への支援だけではなく、学内では生協に協力をいっただいて、ガバオライスなどの東南アジア料理を販売し、売り上げの一部をカンボジアの孤児院で生活している里子の養育費として寄付する「Asian food フェア～食べてつなげる国際協力～」を実施している。第1弾は、7月1日(金)～15日(金)にかけて開催され、第2弾は、メニューを新たに11月7日(月)～21日(月)に行う予定である。ぜひ、料理を通して国際協力に触れてもらいたい。

関優里絵(国際協力サークル～優志～代表、外文3)

講師に彬子女王殿下をお迎えして、第 17 回神道講座開催

教派神道の連合組織である教派神道連合会から委託を受けて本学が開講している「神道講座」は、昨年 49 年ぶりに再開し、今年も「第 17 回神道講座」として6月9日・10日の2日間にわたり渋谷キャンパスで開催された。

当日は、同連合会に加盟する出雲大社教・大本・御嶽教・黒住教・金光教・實行教・神習教・神道修成派・神道大教・神理教・扶桑教・禊教の関係者らが来校。午前 10 時 30 分から 120 周年記念 2 号館 2303 教室で、石井研士副学長・神道文化学部教授があいさつし、開講式が行われた。

その後、講義に移り、本学特別招聘教授の



彬子女王殿下が「日本文化を未来に伝えるために」と題して講義を行った。ご講義では、殿下の英国留学体験、総裁を務める一般社団法人心游舎のワークショップを紹介され、日本文化継承の意義について語られた（写真）。

午後からの講義は会場を学術メディアセンター常磐松ホールに移し、岡田莊司神道文化学部教授の神道史の講義などが2日間にわたり行われた。

また、今回の講座に合わせて国学院大学博物館では、特集展示「登拝と行」が開催されていて、講座の参加者の多くが見学していた。

サッポロHDと連携しアクティブラーニング

経済学部の専門科目「経営学特論（ビジネスデザイン1）」（担当・星野広和経済学部教授、宮下雄治同准教授、矢嶋剛同兼任講師）を受講する学生が7月4日、サッポロホールディングス（HD）本社（渋谷区）で同社の役員や社員を前に、CSR（企業の社会的責任）部門への事業案のプレゼンテーションを行った。

この科目では4月から、サッポロHDと連携してアクティブラーニング（能動的学習）に取り組んできた。同社から「食を通じて世界に『潤い』を——もっと日本をもっと世界へ“KANPA I PROJECT”への取り組みを考える」という「食」による海外への



の社会貢献がテーマとして提示され、約 70 人の学生が3カ月間、15 ほどのチームに分かれアイデアを練ってきた。

サッポログループ各社の役員や社員によるレクチャーや、星野教授、宮下准教授、矢嶋兼任講師の指導を受けて作り上げた各チームのプランのうち、予選を通過した6案がこの日、披露された。

学生たちは同社のCSRやCSV（共通価値の創造）や海外展開を独自の視点で具体化し、さまざまなアイデアを提案。同社社員による審査の結果、「健康ブームのトルコに日本食を提供」、「シンガポールの屋外複合施設に出店」の2案が最優秀賞に選ばれた。

熊本地震被災者の学費減免について

本学では、大規模災害により修学が困難となった被災学生に対し、経済援助を行うことを目的とする「大規模災害学費減免制度」を新たに制定した。

熊本地震で被災し、修学が困難となった学生に対し、本制度により経済援助を行う。対象は、本学学生（学部、大学院、専門職大学院、専攻科、別

科）のうち、災害対策基本法第2条第1項に定めた災害により被災し、本制度に定められた全ての対象要件を満たす者。詳細は「大規模災害学費減免制度出願要項」を参照。

願書の配付は7月1日から9月16日（金）まで、学生生活課・たまプラーザ事務課で行う。願書受け付けは、9月26日（月）、27日（火）に同窓口で事務時間内に実施。

減免採用者発表は11月上旬

減免（給付）採用者の発表は、11月上旬を予定している。

詳細は、学生生活課（☎03・5466・0146）まで問い合わせを。

若木育成会支部の集いルポ①
熊本地震で大きな被害を受けた熊本、大分で支部の集い

在学生の保護者などで組織される若木育成会では、平成 28 年度「支部の集い」を全国 56 支部で開催している。

4 月に発生した熊本地震で大きな被害を受けている熊本県支部では6月19日に、

大分県支部では7月3日にそれぞれ本学教職員が赴き支部の集いが開催された。今回は、現地を訪問した職員が支部の集いの様子などを報告する。

別府タワーから撮影した別府市街

熊本

一日も早い復興を祈願
被災した学生の支援も

若木育成会熊本県支部の集いは、6月19日に開催された。当日の九州地方は、未明から風雨が激しく、土砂災害の発生などにより、熊本も被害を受けていた。

熊本駅から、支部の集いの会場であるホテル日航熊本へと向かう市電の窓からは、築年数を経た建物が傾いていたり、壁面の落下などで脇道が封鎖されたりしている様子が見られた。また、熊本城の長堀の倒壊や石垣の崩落を間近に見た。あらためて4月に発生した熊本地震による被害の大きさを強く意識した。

支部の集いは、午後2時から始まり、前年度よりも多い 28 人の出席があった。開会の言葉に続き、出席者全員で校歌を斉唱した後、緒田耕之進支部長からのあいさつ。引き続き、大学代表の成田信子人間開発学部副学部長・同教授から熊本地震に対するお見舞いとともにあいさつの言葉が述べられた。緒田支部長が議長に選出され、議事に移った。平成 27 年度活動報告・決算が承認された後、役員改選では、新たに久間孝志支部長が選出された。議長が久間新支部長に交代した後、平成 28 年度事業計画案・予算案が

諮られ、満場一致で承認された。

総会終了後、大学側の司会進行に移った。成田副学部長から、「大学生と学ぶ日本語」と題して、日ごろの授業や学生と接するなかで感じられる日本語の使い方についての講演があった。ご父母は、時折うなずきながら熱心に聴講していた。続いて、大学事務局の学生生活担当者から、今年度制定された大規模災害学費減免制度規程に基づく、熊本地震により実家が被災した学生に向けた経済的支援の内容と、その申請スケジュール等についての説明を行った。

教務、就職、学生生活に関する大学事務局の各担当者からの全体説明を経て、1 年生の父母はグループ面談、2 年生以上の父母は、教務、就職担当者との個別面談に移った。熱心なやりとりが時間いっぱいまで続けられた。

その後の懇親会では、懇談も終始和やかに進み、被災地の一日も早い復興を祈願しつつ、閉会となった。

小林博毅（学生生活課長）

大分

安心安全の確保を
再認識

去る 7 月 3 日にラフィネ・マリアージュ迎賓館で開催された「若木育成会大分県支部の集い」に、山西治男入学部長・文学部教授、謡口秀見総務部次長兼総務課長とともに参加した。会場となった別府市は、4 月 14 日と 16 日に発生した熊本地震によって甚大な被害を受けた都市の一つである。今回はその状況とあわせて報告したい。

今回の地震では「別府・島原地溝帯」にある活断層の影響を受けて、熊本市・南阿蘇市から由布市・別府市にまたがる地域が打撃を受けた。複数の活断層からなる断層帯の一部がずれ動いて起きたものであるため、断層から離れた大分市や杵築市ではそこまでの被害がなかったものの、断層に近い由布市や別府市で大きな被害を受けたのである。

私たちは7月2日に開催された宮崎県での支部の集いを終えて、その足で別府市内に到着していたため、翌3日の午前中に別府市街を散策し、地元の方に話を伺うことができた。市内でも活断層に近い地区とそうでない地区では、被害に大きな差があったそうであ



る。街のシンボルである別府タワーの展望台に上って街の風景を確認しても、特段の被害を見つけることはできなかったが（写真）、地震の直後には断水の影響で1週間ほど休業したそうである。この他、海外では九州全体が被災したようなイメージが広がったことから、今後も少なからず観光へ影響が残ると予想されること、県外への発信は九州全体で取り組まないと効果が期待できないであろうことなどを伺うことができた。

午後からの若木育成会大分県支部の集いでは、菊池俊道支部長をはじめとすご父母の方、野崎邦康院友会支部長をはじめとする支部役員の方が出席し、予定通り開催された。個人面談や懇親会では、地震による被害よりも、最大震度6弱をはじめとする断続的な地震があったことへの恐怖心を伺った。学生を預かる立場の者として、こうした事態が発生した際の安心安全の確保に向けて、今後も日ごろから意識する必要性を再認識した。

人見剛（たまプラーザ事務課教学・就職担当課長）

7月7日の七夕の1日を浴衣や和装で過ごすイベント和装Dayが渋谷・たまプラーザ両キャンパスで開催された。日本文化の体験、発信の機会として、昨年度から始まったこの取り組みは、浴衣をはじめ和装での授業参加が呼びかけられ、男女問わず多くの学生が浴衣姿でキャンパスに彩りを添えた。

イベント当日に向け、6月末から各キャンパス内には、学生の思い思いの願い事がしたためられる短冊、風鈴、竹灯籠などが用意された。また、6月22日には、浴衣着付け講習を渋谷キャンパス内で実施。きもの文化への理解促進がはかられた。

七夕当日は、午前8時から特別更衣室を開放。自宅から浴衣姿で登校する学



生も多くいたほか、大学で浴衣姿に着替えた学生たちも散見された。

渋谷キャンパスでは、終日さまざまなイベントが用意され、キャンパスモールでは、正午からMiss & Mr 国学院候補者のお披露目イベントが行われたほか、浴衣を着用した学生限定の輪投げやヨーヨー釣りの屋台も登場した。

各キャンパスでは、熊本地震からの復興を支援しようと募金活動が行われ、募金に応じた学生らには熊本地産のスイカが振る舞われた。

浴衣姿の学生がキャンパス彩る



ミュージアム連携事業 日仏会館と連携イベント

7月7日、和装デーでにぎわう渋谷キャンパスで、ミュージアム連携事業に今年度から加わった日仏会館フランス国立日本研究センターとの連携イベントが行われた。国学院大学博物館では、7月4日から10日まで特集展示「大津絵の展示」を開催。同センターが所蔵する大津絵約20点が展示された。

7日にはフランス・国立東洋言語文化大学教授のクリストフ・マルケ氏が「江戸の庶民絵画 大津絵」と題してミュージアムトークを行い、大津絵の成立と変遷、画題に託された意味などを紹介した。

この他、フランス・パリ発祥のマヌー

シュ・ジャズのライブ(写真)や、「カタルーニャにおける日本美術コレクションと芸術家への影響」と題したスペイン・バルセロナ自治大学教授のリカル・ブル氏による講演会が行われた。

〈写真〉本間



客員教授水曜講座 大リーグ! アメリカ野球に学ぶ ~海外に羽ばたくために~

6月22日午後2時30分から、渋谷キャンパス130周年記念5号館で、NPB審判技術委員で本学客員教授の平林岳氏(平3卒・99期法、写真右)とサンケイスポーツ編集局部長の田代学氏(平元卒・97期法2、同左)を招いて、客員教授水曜講座「大リーグ! アメリカ野球に学ぶ~海外で羽ばたくために~」が行われた。

日本人初のマイナーリーグ審判員の平林氏は、審判のやりがいについて語り、

「何事も挑戦することが大事で、失敗も財産になる」と話した。

メジャーリーグで日本人初の公式記録員の田代氏は、野球選手たちとのエピソードについて語り、「海外では言葉の壁はあるが、人とのつながりを大切にしたい」と後輩たちに伝えた。

〈記事・写真〉山本



柔道部 全日本学生柔道優勝大会でベスト8

6月25日、26日に日本武道館(千代田区)で、平成28年度全日本学生柔道優勝大会(全日本学生柔道連盟主催)が行われた。25日に仙台大学との1回戦を6勝1敗で突破した本学柔道部は、翌日の2回戦で皇学館大学と対戦。5勝0敗2分けと危なげなく退け、3回戦に駒を進めた。

3回戦では昨年度ベスト8の山梨学院大学と対戦。互いに譲らず接戦になり、1勝1敗5分けて代表戦に持ち込むと、二見省吾君(経2・写真)が一本勝ちを収め接戦を制した。

準々決勝は、昨年度ベスト8の国士舘大学と対戦。果敢に一本を目指して相手に挑

んだが、0勝3敗4分けて敗れ、今大会はベスト8となった。

〈記事〉豊田 〈写真〉本間



歌舞伎鑑賞教室

6月17日午後7時から、国立劇場(東京都千代田区)で『DISCOVER KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—』が行われ、本学で学ぶ留学生と日ごろ留学生をサポートしている在学生(K-STEPアシスタント)ら31人が参加した。

まず歌舞伎俳優の中村萬太郎さんとフリーアナウンサーの木佐彩子さんによる解説「歌舞伎のみかた」で、隈取りという独特の化粧や見えの切り方など、適宜英語を用いて説明が行われた。

後半は『新皿屋舗月雨暈—魚屋宗五郎

—』が上演された。主人公の魚屋宗五郎(中村橋之助さん)が、妹を殺された悲しみから断っていた酒を飲んで、花道を駆け抜ける場面など、迫力ある演技に会場は大いに盛り上がった。

〈記事・写真〉小口



(((インフォダイジェスト)))

事務局からのお知らせ

大学事務局 夏季休暇中の事務休止日および事務取扱時間について

7/25(月)から9/17(土)までの土曜日・日曜日・祝日および8/12(金)から24(水)は大学事務を一齐休止する。

夏季休暇中の事務取扱時間は本学ホームページおよび掲示でお知らせする。

後期授業開始について

学部・専攻科・別科・大学院・法科大学院の後期授業開始は、9/21(水)。学年暦については、学生手帳や本学ホームページで確認を。

各種学内奨学金の願書を配付

国学院大学修学支援奨学金(後期・年額

15万円)・弘田ふるさと奨学金(年額70万円)・カビー奨学金(年額30万円)・あすなろ奨学金(年額30万円)・田村祥浩君記念奨学金(年額15万円)・国学院大学留学生奨学金(年額20万円限度)・教育ローン利子補給制度(年額5万円限度)の要項・願書を学生生活課、たまプラーザ事務課で9月16日(金)まで配付。詳細は、本学ホームページや掲示などで確認を。

本学の奨学金は全て単年度採用のため、昨年度奨学金受給者も、希望の場合は出願が必要。

海外渡航について

近年、日本人を含む外国人を標的としたテロ、誘拐などの重大犯罪が多発しています。また、地域によっては、感染症や紛争などが発生している恐れもあります。

夏季休暇を利用し、海外渡航を計画する

際は、外務省の海外安全情報のチェック、日本大使館など現地の緊急連絡先の確認、家族・知人への旅行日程・連絡先の伝達、および細かな連絡、海外旅行保険への加入などを行い、安全の確保を心掛けてください。

講座等のご案内

たまプラーザキャンパス公開講座(教養)

9/15(木)~17(土)にたまプラーザキャンパスで、村山雅人文学部教授、加藤季夫人間開発学部教授他、本学の各学部専任教員が講師を務める講座を開く。応募締め切りは9/8(木)。

問い合わせはエクステンションセンター(☎03・5466・0270)まで。

法学部法学会懸賞論文募集

法学部法学会では、法学・政治学をテーマとする懸賞論文を毎年1回募集。優秀な

作品は、表彰され、「懸賞論文入選集」に掲載される。

応募締め切りは来年1月10日(火)午後3時まで。詳細は法学部資料室(若木タワー7階)まで。

平成28年度の国学院雑誌学生懸賞論文を募集

国学院雑誌編集委員会では平成28年度の国学院雑誌学生懸賞論文を次の要領で募集する。

応募資格は、本学文・神道文化学部、大学院文学研究科、専攻科、別科在籍者。テーマ、題目不問。未発表論文に限る(卒業論文も可)。

応募締め切りは来年3月末日(郵送分は当日消印有効)。広報課(国学院雑誌編集担当)まで提出。詳細は国学院雑誌各号に掲載される投稿要領を参照。

その他のイベントなどは、本学ホームページで確認ください。



細森大輔君（法4・セッケン28）

大学駅伝日本一を決める秩父宮賜杯第48回全日本大学駅伝対校選手権大会の関東地区選考会が、6月18日に浦和駒場スタジアム（さいたま市）で行われた。本学陸上競技部は、昨年に続く2年連続の本選出場を目指した。

予選では、出場校20校から各校8人が2人ずつ4組に分かれ、1万メートルを走り、

合計タイムを競う。その中で上位9校が本選出場の切符を手にすることができる。

当日は埼玉県内で今年初めて猛暑日記録する暑さとなった。レースはその暑さが残る中、午後5時にスタートした。

高い総合力を武器に勝負した本学陸上競技部は、出走した8人の選手がそれぞれ終始安定したレース展開を見せた。その結果、

2年連続の伊勢路切符獲得

全日本大学駅伝本選の出場決定

合計タイム4時間5分56秒で総合6位に入り、2年連続5回目の伊勢路の切符を手にした（詳細別表参照）。同大会本選の2年連続出場権獲得は本学初の快挙だ。

大会後の報告会で前田康弘監督は「目標だった5位以内を果たせなかった。もっといけたという気持ちがある。出場権獲得におごることなく精進し、本選で素晴らしい走りを見せたい」と、主将の蜂須賀源君（健体4）は「10月の箱根駅伝予選会、11月の全日本駅伝本選へチーム一丸となって強い気持ちで練習していく」とそれぞれさらなる飛躍を誓っていた。

本選は11月6日（日）、愛知・熱田神宮から三重・伊勢神宮までの全8区間、106.8kmで行われる。当日はテレビ朝日系列で中継予定。ぜひテレビの前で、または現地に足を運び沿道で応援してほしい。

〈記事〉尾澤 〈写真〉野呂

総合成績		
順位	大学名	記録
1	山梨学院大学	4:03:25
2	日本大学	4:05:20
3	日本体育大学	4:05:43
4	拓殖大学	4:05:52
5	帝京大学	4:05:54
6	国学院大学	4:05:56
7	中央学院大学	4:06:02
8	大東文化大学	4:06:39
9	国士舘大学	4:06:58
以上、全日本大学駅伝出場権獲得		
10	順天堂大学	4:07:06
11	東京国際大学	4:07:12
12	城西大学	4:07:26
13	専修大学	4:08:45
14	法政大学	4:09:10
15	上武大学	4:10:32
16	東京農業大学	4:11:21
17	中央大学	4:11:39
18	亜細亜大学	4:12:15
	神奈川大学	途中棄権
	創価大学	途中棄権

院友ネットワーク 院友石井一夫さん 創業69年、老舗の店を守る2代目

食の流通拠点として世界最大級の規模を誇る東京・築地市場（中央区）。施設の老朽化や場内の過密化によって、今年11月7日（月）に築地市場場内は新しく豊洲へ移転する。

この築地に今年創業69年を迎えた老舗佃煮屋「つきじ石井」がある。その2代目、院友の石井一夫さん（昭48卒・81期経）の伝統の味に対するひたむきな姿勢に迫った。

佃煮の歴史

佃煮は砂糖と醤油で煮付けられ保存に適している。江戸時代、参勤交代で江戸から戻る武士たちが土産物として各地に持ち帰り、全国へ普及していった。

同店は昭和22年に創業。先代である義父が場内の店に丁稚奉公として働き、現在の店がある土地を購入して店を構えた。辛味が強い江戸前佃煮は創業当時の変わらぬ味を伝えている。しかし、冷蔵庫の普及や食生活の西洋化で売り上げは平成2年



つきじ石井の佃煮

にピークを迎えた。

変えた“経営方針”

石井さんが店の経営に関わることになったのは今から17年前。それまで、全国のデパートに出店していたが、営業戦略を見直し、規模を縮小。現在は、池袋や船橋など店舗の支店を構える一方で、通信販売や、スーパーに展開し、より多くのお客さんに手に取ってもらえるように努めている。

変えていくべきところは変えていくが、守り続けていくべきこともある。これが「老舗の味」と石井さんは語る。

老舗の江戸前の味を求めて店を訪れる客の8割はリピーター客だ。わずかな加工方法の違いによる味の変化も見逃さないファンも多いという。伝統の味が変わってしまい、お客さんが離れてしまうと大きな痛手となる。石井さんは細かく味付けの管理し、変わらない伝統の味を提供できるように心掛けている。

もちろん、伝統の味を守りながらも、新商品の開発にも余念がない。材料の仕入れ先と話し合い、旬の食材を使った限定商品などを販売している。今春は旬のカキやホタテなどの食材の佃煮を販売していた。取材時も意外な食材を使用した佃煮が作れないか考案していた。

伝統の味を守る

同店で実際に販売されている小女子の佃煮。醤油などの伝統の味で煮付けられた一



尾一尾は照り輝き、佃煮独特の深い香りが立つ。しっとりとした触感と辛味のある味付けはほのかに甘さのあるご飯と程良く合う。かむほどにうまみが広がり、ご飯のお供としてはさることながら、食欲をかき立て、食事を豊かにさせる一品だ。

その味の深淵には老舗を守る石井さんの真摯な姿勢があると感じた。

〈記事〉本間 〈写真〉永井

編集後記

学生記者として活動を始めて、1年がたちました。ひとつの原稿を書くことから、言葉の力を思い知ることが多い1年になりました。接続詞ひとつを取っても、読者への印象は変わった

り、話し言葉を書き言葉に言い換えるために、類語辞典を使ったりすることがあります。同音異義語もよく悩みます。「せいさく」という言葉ひとつに複数の漢字の組み合わせが当てはめられる。製作、制作、政策……。捉え方によっては、まったく違うニュアンスで伝わってしまうものです。会話の中であればすぐに忘れても、活字

として残ってしまっは……。言葉の力は強く、人を惹きつけます。いい意味も逆も然り。言葉を扱う以上、読者を惑わせてはいけないし、私自身、言葉にとらわれないよう精進したいものです。

（本間）

学生記者の「ツボ」

今回のテーマ「今年の夏に行きたいスポット」

永井伶奈（日文3）

長野県の戸隠古道を歩き、そばを味わいたい

柳下桂一郎（史2）

泊まりがけで大阪に行き、USJや道頓堀などを巡りたい

土橋菜央（法4）

友達に会いに米国と英国に行きたい

平野玉葉（経4）

ゼミで研究した初島に行き、島民の方と触れ合いたい

逸見佳歩（外文3）

熱海のビーチで思いきり泳ぎたい

小口直哉（法2）

中国の内モンゴル自治区に行き、馬に乗りたい

尾澤桃子（法2）

バラオのコロール島でスキューバダイビングをしたい

野呂侑合香（法2）

奥多摩の日原鍾乳洞で涼みたい

本間由（日文2）

足尾銅山跡で廃虚ツアーに参加したい

岸本京香（経営1）

台湾フェスティバルに行き、台湾の文化に触れたい

後藤哲治（日文1）

静岡と大阪のきれいな景色を見て、おいしいものを食べたい

塚本咲実利（日文1）

四万温泉の足湯につかりながら温泉揚げまんじゅうを食べたい

豊田菜々美（日文1）

厳島神社の大鳥居を見に行きたい

沼田勇佑（哲1）

テラスモール湘南で好きなブランドのTシャツを買いたい

山本莉紗子（外文1）

長野県の千畳敷カールで高山植物を見ながらハイキングしたい

吉田奏美（史1）

アートアクアリウムに行き、金魚が泳いでいる姿を楽しみたい